

# 定例教育委員会会議録

(平成30年10月9日開催)

岡谷市教育委員会

# 定 例 教 育 委 員 会

日 時 平成30年10月9日 (火)

午前9時30分

場 所 2階 202会議室

署名委員 藤森委員、小平委員

## 【 次 第 】

### ○ 開 会

### ○ 教育長報告

### ○ 議 題

1. 全国学力学習状況調査について 【資料No. 1】 (教育総務課)

2. 通学路等の安全対策について 【資料No. 2】 (教育総務課)

3. 長野県の夏休みについて 【資料No. 3】 (教育総務課)

### ○ 報 告

1. 子育て相談体制リーフレットについて 【資料No. 4】 (教育総務課)

### ○ そ の 他

・魅力と活力ある学校づくり推進プランの修正箇所について 【資料No. 5】 (教育総務課)

・行事等について (各課)

・その他

【次回開催予定】 11月7日 (水) 定例教育委員会 13時30分 6階 605会議室

## 出席委員

教育長 岩本 博行、職務代理者 草間 吉幸、教育委員 太田 博久、教育委員 高木 千奈美、  
教育委員 藤森 一俊、教育委員 小平 陽子

## 事務局 (説明員)

教育部長 吉澤 洋人、教育部教育担当参事 三村 靖夫、教育総務課長 帯川 豊博、  
教育総務課主任指導主事 竹内 良之、生涯学習課長 小池 秀昭、スポーツ振興課長 小河原 義友、  
教育総務課統括主幹 山田 勝由紀、教育総務課主幹 小口 明彦、教育総務課主査 保科 圭吾

## <会議録>

### ○開 会

岩本教育長： 皆さんおはようございます。本当に秋らしいさわやかな青空が広がっております。こういう日は心も体もしっかりまわるような気がしてなりません。充実した定例教育委員会にしたいと思いますのでよろしく願いいたします。

それでは、只今より定例教育委員会を始めたいと思います。本日の署名委員は藤森委員さんと小平委員さんをお願いをいたします。最初に私から教育長報告をさせていただきます。

### ○教育長報告

本日は、教育総務課から1件報告をさせていただきます。

#### 1. ものづくりロボットプログラミング授業について

今年度、市内全小学校の4年生を対象に進めてきた「ものづくりロボットプログラミング授業」で、7月には岡谷工業高校との連携が実現し、高校生をサブティーチャーとして神明小学校で授業を行ったわけですが、去る9月26日、今度は川岸小学校にて、中学校区である西部中学校から、技術科の先生を招き、主任指導主事とのティームティーチングによる、ものづくりロボットプログラミング授業を行いました。

ある児童は授業後の振り返りに、「中学はいつもこんな授業をしているなんてズルい」と綴り、中学校の授業への憧れを抱いていました。また、はじめて小学校で授業をした西部中の中島先生も、「中学生とは違った小学生の生き生きとした反応に、わたしが楽しくなりました」と、小中がつながることの手応えを感じていました。

もともと、この「ものづくりロボットプログラミング授業」は、産学官連携の枠組みを持って立ち上がったわけですが、これからは、小中高連携の枠組みも加わり、子どもたちが、ものづくり岡谷の「ひと・もの・こと・ところ」に触れる大切な学習の機会として可能性を広げているところであります。

岩本教育長： 以上、私からの報告とさせていただきます。竹内先生一言感想をお願いいたします。

竹内主任指導主事： 今、「ズルい」という話がありましたが、子ども達の振り返りにそういったことを書いたお子さんがいました。中学校へ子ども達が憧れを持つということを非常にこの連携の中で感じたなあというところでもあります。それともう一つ、中学校の先生が中学校だけではなくて小学校で授業をしたことによって、自分が日頃やっている授業でこれだけ子どもからはたらき返しがあるんだということに感動を覚えたということも小中が連携していくところの良さ。子ども達もそうですけども教師同士の繋がり、関係性の中にもそういった連携の良さが生まれてくるのかなあというのをあらためて感じました。

岩本教育長： これからも、全小学校で大事にこの授業を進めていきたいと思います。何かご質問、ご意見等ございましたらお願いをいたします。

草間職務代理者： 今後、他の中学校と小学校へ広がっていく可能性はありますか。

事務局： 早々に11月に南中の技術科の宮澤先生に岡谷田中小で行ってもらいます。来年以降も継続してどこまで広がっていきけるか分かりませんが、校長先生方と相談をしながら、早い段階で予定を立てて動いていければと思っております。

岩本教育長： よろしいでしょうか。それでは、本日の議事に移りたいとお思います。

### ○議 題

#### 1. 全国学力学習状況調査について (教育総務課)

岩本教育長： 議題1について事務局より説明をお願いします。

<事務局より岡谷市の全国学力学習状況調査の結果について説明。>

岩本教育長： 今、事務局から説明がありましたが、ご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

太田委員： 今回、小学校6年生と中学校3年生で、何か傾向の違いというのが見られたのでしょうか。というのは、記憶で申し訳ありませんが、比較的岡谷市は、学力に関する調査等の結果をいただくときに小学生は全国や県の平均を上回っていたり、平均レベルにあることが多いんですけども、中学生になると少し低下をするという傾向が比較的に見受けられるかなあという記憶があります。今回に関しては、何かそのようなことがあったかどうか教えてください。

事務局： 小学生は、太田委員さんがおっしゃるとおりです。中学生は、結果として上がっております。今まで全国平均、県平均のどちらかから少し下がっていたとか、同等だったというところでお話をさせていただいておりましたが、今年度はどちらともほぼ同等といいますか、クリアしております。そういった数値まで上がってきております。そこは、4つの中学校がある中でそれぞれその年々の状況で子ども達の母体が違うものですから違いがある訳ですけども、ここ数年課題があった学校がぐっと点数を伸ばしてきたというのが大きいかなあと思います。それと今の中学校3年生は、3年前に結果が突出して良い小学校がいくつかあったんですが、その子ども達を落とさずにそのままキープしてくれたなあというところが大きいかなあと分析しております。

高木委員： 教員の授業力向上のためにという点で、先ほど竹内先生から岡谷田中小と神明小の公開授業のお話をさせていただいたんですけども、私もどちらの学校の授業も参観させていただいて、どちらの学校も共同参観だけではなくて、全クラスの先生方が公開をされていたということで、先生方の準備とかも大変だったと思うんですけども、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を図り、互いの授業を公開し合って授業力の向上に努めるという点で、先生方も大変勉強になったのかなあという風に私自身も感じました。岡谷田中小で全クラスの公開があった後に授業者との懇談の時間があったんですが、私はそういうのが初めてだったので、どうしようかなあと思ったんですが、最後に参観させていただいたクラスの先生の教室に入らせていただいて一緒にお話をさせていただいたんですが、最初からずっと見てくださっていた他の地区の先生が、大変的確な授業についてのご指摘をさせていただいていて大変ありがたいなあと感じました。また、学校評議員の方がお一人授業をずっと参観してくださっていて、その方も一緒にその場で担任の先生に授業を見てのご意見を率直におっしゃってくださって、地域の方が授業を参観することがあっても、直接担任の先生に還元するという場はなかなかないと思うんですけども、そういうところでご発言させていただいて一緒に改善していくようにして下さったというのも大変ありがたいことだなと感じました。そして、その担任の先生がとてもそれを真摯に受け止めてくださっていて、とてもありがたいと思いました。とても良い時間を私自身も過ごすことができました。

岩本教育長： 私も色々な学校の授業を見せていただく機会があるんですけど、特に中学校の授業が変わってきたなあという実感があります。そして、同時に子ども達が非常に落ち着いて学習に向かう姿勢が付いてきているなあと思います。やはり心の成長も学力も両輪とよく言っている訳ですけども、両方が相まって本当に子どもが伸びていくんだなあとあらためて思っております。全国学力学習状況調査は一つの指標でありますので、これに一喜一憂することなく地道に学力向上に向けて先生方、或いは保護者の皆さんとも力を合わせて、一步一步進んでいけたらいいのかなあと思っております。岡谷の子ども達は色々な場面、運動、或いは文化のポスターとか作文だとかそういったところでも、かなり優秀な成績を示してくれております。言葉を変えると非常に個性豊かになってきているのかなあと思っております。やはり自己肯定感が伸びて、一人ひとりが自分の良さをしっかりと見据えながら更に上に向かって伸びていく。そんなところを私達は、おおいに応援してあげたいなあと思っております。また、よろしくお願いいたします。

それでは次の議題に移ります。

## 2. 通学路等の安全対策について (教育総務課)

岩本教育長： 議題2について事務局より説明をお願いします。

<事務局より通学路等の安全対策について説明。>

岩本教育長： 今、事務局から説明がありましたが、ご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

藤森委員：資料を拝見させていただきまして、各学校毎の危険箇所が挙げられている訳ですけども、川岸小学校が24箇所挙がっていて、すごく多いなという印象を受けました。逆に小井川小学校は2箇所ということで、これは恐らく通学路の範囲の違いだったり、色々な地域性というところもあるのかなと思うんですけども、ただ各校毎にバラつきもあって、危険箇所がないということは結構なことなんですけども、何か学校毎に基準みたいなものはあるんでしょうか。

事務局：特に基準みたいなものは設けてごさいません。学校ですとか保護者、或いは地域で見守っていただいている方達から危険箇所を学校の方で吸い上げていて、特に警察とか関係機関で見て改良した方がいいんじゃないかなというところを学校側で判断して決めていただいているという状況です。学校毎の差の部分なんですけども、平成25年から取り組んでいる中で、比較的街中の部分は、グリーンベルトですとか既に改良が進んできている部分がございます。課題になっているのが、川岸の県道ですが、なかなか幅がされないというところで私達も危険を感じている部分がありまして、県にも早期の改修等を要望している訳ですけども、なかなか解消されない部分かなあと感じております。引き続きこんな形で進めていければなあと思っております。

太田委員：今回もたくさんの具体的な箇所が挙げられていて、その一つひとつについてどういう風に改善していくのかとても地道な作業ですし、場所によってはとても時間がかかることだと思いますが、私の自宅の近所の市営球場の下の横断歩道も具体的に手を打っていただいて、横断歩道の引き直し、それから街灯の設置、それから上から下りてくる車に対してすぐに横断歩道があるという表示をしていただいて、そういう具体的な対策をしていただいたおかげで、劇的に横断歩道上から下りてきた車が止まるという状況が以前と比べてもつくられるようになったかなあと思うので、こういうことはやり方によっては差がでるかもしれませんが、地道に保護者の皆さんや地域の皆さんと協力しながら続けていくということは非常に大事なことだし、意義があることだなあとあらためて感じております。その上で確認ですけども、具体的に一つずつ改善をしていく方向性と同時に、通学をする子ども達にどれだけ具体的に「ここはこういう危険があるんだよ。」というのが伝わっているかどうかということも非常に大事だと思います。そのことによって自分達が承知をしていって、いかに注意をする行動をとれるかということも非常に大きな要素だと思います。保護者の皆さんには伝わっていると思いますが、具体的に子ども達にどういう形で伝えていっているのか、そういった状況を教えていただければと思います。

事務局：通学路等の安全対策マップというのを各学校毎の生徒指導推進委員を中心に毎年点検する中で作っていただいております。そういったものを先生達で情報を共有する中で、子ども達に伝えて指導していただいている状況であります。

太田委員：よく参観日の後なんか、低学年の1、2年生を中心に先生達が付いて行って下校させたりということをやっているの、ああいった時に具体的に地道に指導をされているという認識でよろしいでしょうか。

事務局：はい。

草間職務代理者：安全点検によって危険箇所はかなり減ってきたと思いますし、学校の子どもの教育も徹底されてきていると思います。問題はドライバーなんですよ。よく市民環境課の交通指導員の方が、子ども達の登校時にパトロールをしてくださっていましたが、交通指導員の方が横断歩道に立っているだけでもドライバーにとっては抑止力になると思います。見守り隊の方達だけでは、どうしても限度があると思いますので、交通指導員の方達や安協の方達と協力して一体となって子ども達を守っていくという体制づくりをお願いしたいと思います。

事務局：今回の安全対策会議に中でも警察とも連携する形で、できれば交通安全週間以外も車で走っていただくだけでも、だいぶドライバーの認識も変わるところもあると思いますので、そんな連携も図っていただければと思っております。

小平委員：車の関係なんですけど、冬場のミラーが霜が付いて見えない場所が結構ありまして、怖いなあといつも思っているんですけど、逆に皆さん気を付けるとは思うんですが、朝方にああいうのを見るとちょっと子ども達が心配だなあという気がします。対策は何かあるのでしょうか。

事務局：曇り止めのミラーがあるみたいですので順次取り換えをしているようですが、まだ行き届かない箇所があるようです。

小平委員：PTAをやっていたときに北中の子ども達が反射タスキをしていなくて、反射タスキをさせて

欲しいという要望を出したんですが、すぐに通らなかった気がします。今は、着けているのを見かけた気がするんですが、ものすごく大事だと思っておりまして、特に冬場は、陽が落ちるのも早いので学生服を着てしまうと本当に真っ黒になってしまって、ドライバーから見えにくくて危険だと思います。今は、全部の学校が着けているのでしょうか。

事務局： 中学校については、一昨年に南部中学校の生徒が交通事故で亡くなりましたので、それを受けて各学校に市の予算で配布をさせていただきました。それ以前は西部中学校が独自にやられていましたが、各中学校でも着けるように指導しております。

岩本教育長： 貴重なご意見をいくつか寄せていただきました。これを基にかけがえのない子ども達の命を守るために学校、地域、家庭、それから行政、あらゆる立場の者がみんなで力を合わせていく必要があるのかなあと考えておりますし、太田委員さんが言われたように子ども自身も自分に命を自分で守るという意識をどれだけ醸成するか。これが今一番欠かせない大事な要素かなあと考えております。危険個所を大人に守ってもらうだけではなくて、自分で守るという意識を小さい頃から持っている子どもは悲しい出来事に遭わずに済むのかなあと考えておりますので、これについても地道に子ども達と色々な機会があるごとにしっかりと自分の命を守るための力を付けていきたいと考えております。また、それぞれのお近くで危険個所があるかと思っておりますので、ご覧をいただいて気になるようなことがありましたら教えていただければと思います。よろしく願いいたします。

それでは、議題2につきましては以上とさせていただきます。それでは次の議題に移ります。

### 3. 長野県の夏休みについて (教育総務課)

岩本教育長： 議題3について事務局より説明をお願いします。

<事務局より長野県の夏休みについて他県等の状況等を踏まえながら説明。>

岩本教育長： 夏休みの期日については、他の長期休業もそうですけれども、教育委員会で決めるものではなくて、校長の教育課程の編成権の一部でありますので、最終的には校長先生が色々な事を勘案して年間のスケジュールを決めるということになります。ただ、できれば市町村それぞれである程度休みの期日をそろえた方が生徒指導とか色々な面でいいというようなこともあって、今は校長会で相談をしながら、それぞれの学校の状況に応じて夏休みを決めていただいております。過去、岡谷市では全国で一番長い登校日数ということで、よくテレビ局の取材を受けたりもして、非常に学校で勉強する時間が長かったというようなことが話題になりましたが、今は特にそういうことがなく県の平均の登校日数と同じくらいとなっております。先程課長が申し上げたように、これから、校長会でも検討をしていかなければいけない一つの課題かなあと考えておりますのでご意見等がありましたらお聞かせいただけたらと考えております。

高木委員： 夏休みもそうなんですけど、春休みが非常に早くから始まるというのは長野県としては、教育的な配慮があるのでしょうか。

岩本教育長： 高校入試があって、その後に丁寧に指導をして次の進学に繋げていきたいという思いや、昔から教職員の人事の時期でもありますので、先生方が次の学校に行って上手に受け入れられることができるように、そして、新学期の準備も十分に行うことができるようにというそういう期間だと思います。先生達は、春休みは休みがないです。来年度の教育課程の編成をしたり、授業の時間割を決めたり非常に忙しい時期だと思います。そうやって新年度を大事に上手くスタートできるようにということで春休みをしっかりと取っているという経緯かなあと考えております。

太田委員： ちょっと確認ですが、全国の色々な地域の比較が1ページに出っていますが、例えば、東京の世田谷区なんかは公立も私立も全部含まれての平均のデータになるのでしょうか。今、岩本教育長先生からもお話があったように、こういうものの決定というのは校長の責任ということになると、特に私立の学校なんかは独自に色々決めていくということもあるのかなあと思っておりますので、そうすると東京都はかなり私立の比率も多いと思うので、東京都の学校は夏休みがとても長いという印象は持っていますけれども、学校によって結構違いがあるのかなという感じもしますが、その辺はどうなんでしょうか。

岩本教育長： これはすべて公立だと思います。

太田委員：最終的には休みと授業数のバランスだと思いますし、夏休みも長ければいいという訳ではないと思います。今の猛暑ということを考えると長野県の場合は、相対的に確かに夏休みはもう少し考えた方がいいのかなあとということも事実として私自身も思いますし、個人的に子どもの頃、お盆が終わったらすぐに学校というのはちょっときついなとも思っていましたし、色々な考え方や感じ方があろうかと思いますが、最終的にはバランスの問題だと思いますので、色々な検討をしていく必要性というのは、確かに時代の変化とともにあるのかなあと思っております。

小平委員：長野県が学校行事を大切にしている風潮とありますが、実際に行事が多いということなんでしょうか。

事務局：登山や遠足という部分が本県では特殊な部分で、他県に行事として組み込まれていない分、多いと捉えてるようです。

岩本教育長：働き方改革という部分でも夏休みを長くして先生方がリフレッシュしていただいたり、或いは本当に研修ということで自分の学びたいことをしっかりと学んでいただく機会にしたかどうかという声もあります。たぶん色々なお考えがあって、どれも間違いじゃないと思いますが、いずれにしても学校のやるべきこと、家庭のやるべきことをしっかりとこの際考えていきながら、この夏休み、或いは長期休業をいうものを捉え直すということは本当に必要なことだと思っておりますので、これを良い機会と捉えて岡谷市でも校長会を中心になって、また、教育委員会も一緒になって夏休みのあり方等を考えていきたいと思っております。

それでは、議題は以上でございます。次に報告事項に移りたいと思います。

## ○報告

### 1. 子育て相談体制リーフレットについて (教育総務課)

岩本教育長：報告事項1について事務局より説明をお願いします。

<事務局より新たに作成した子育て相談体制リーフレットについて説明。>

岩本教育長：このリーフレットをご覧いただいて、ここをもっとこういう風にした方がいいんじゃないかというところがございましたらご意見をただけたらと思います。

高木委員：保護者にも向けてということですね。すごく情報がたくさんあるのをこういった形でまとめられていて、とても大変だったと思うんですけども、後半の巡回療育相談の辺りから言葉も難しいので、保護者向けだとしたらもっと平易な言葉にして、言葉を減らしてもいいのかなあと思いました。例えば、スクールソーシャルワーカーの部分で「スーパーバイザー的な役割に立ち」とありますが、ないくらいでもいいのかなあと思いました。

あと、「◎学びの場」のところですけども、この下の部分とどういった関係があるのか最初分からなかったのも、「岡谷市にはこのような学びの場があります。」という風にしていただけたらもうちょっと分かり易いのかなあと思いました。

事務局：ありがとうございます。確かに字が多いと思いますので、もっと簡潔に分かり易く改善していきたいと思っております。

藤森委員：こういったリーフレットを作成していただいて大変ありがたいと思います。一つは、今、高木委員さんがおっしゃるように教育用語という大変ですけども、専門的な言葉があって、PTAをやっていた時もそういった話をさせていただいていたんですが、一般の保護者の方にはそこら辺が伝わりにくかったりするので、せつかく良いことをやっていただいているんですけども、ちょっと分りにくいところがありますので、そこら辺の部分を少し見直していただければいいのかなあと思います。

それと、こういったリーフレットの配布の仕方の一つ的手段としては、岡谷市のホームページとかに掲載をして、ダウンロードできるような仕組みを作るとかそういったことはあるのでしょうか。

事務局：できれば、そういったことができるようにしていきたいと思っております。当然会議等で配る

んですけれども、必要な情報がホームページから伝わるようにしていければと思っています。

藤 森 委 員： まずは知っていただかないと意味がないと思いますので、ホームページも一つの手法だと思いますし、色々な方法を考えていただいて、より多くの保護者の方に周知できるような仕組みづくりをお願いしたいと思います。

太 田 委 員： まず、とても良いことだと思います。取り組んでいただいてありがたいなあと思います。もし、できることなら、或いはこの次に改訂する時で構わないんですけど、恐らくこれで何らかの相談は大きく二つに分かれるのかなあと思います。一つは、具体的に悩みとか課題とかが見えていて、こういうことを相談したいということを持っていらっしゃる方、その方に対しては、リーフレットを見ていただいて、こういうところへ相談しようというようなアクションが具体的に起こせる形になっているのかなあと思います。もう一つは、多分ここをもうちょっとやっていかないといけないかなあと思いますが、何が課題か分からないけど、ちょっと困っていてどうしたらいいのかなあという方達に、できれば気軽に最初の相談という形で一步踏み越える勇気を持っていただいて相談していただくと、もしかすると深刻になる前に何か保護者の皆さんもアクションが起これたり、もうちょっと上手い具合に深刻になる前に解決ができるということがあろうかと思いますので、特に私はそこがとても大切なことかなあと思います。ですので、恐らくこの構成でいくと、最初に子ども総合相談センターに電話いただいたり、相談していただくと「そういうことでしたらこういうところにこういう風に相談をしていただけますよ。」というアドバイスというか方向付けをしていただけるんじゃないかなと思います。その辺のところをまずは、悩んでいないですから、まずは気軽にというようなところが分かり易くなるといいのかなあと思いますので、最初の子ども総合相談センターの部分に何か分かり易く文言を入れていただくとより良くなるのかなあと思います。

草間職務代理者： 多分親御さん達が悩んで真っ先に相談するのは、保育園の先生または学校の先生達だと思います。その場合にこのリーフレットをいかに先生方にご理解していただいて、先生方が保護者に適切なアドバイスができるようにしていけないといけないと思いますので、先生方にもしっかりと理解をしていただくような方法を取っていただきたいと思います。

岩 本 教 育 長： ありがとうございます。非常に市民の皆さんの目線からのご発言かなあと思いますので、更にまた部内で検討をしてより良いものにしていきたいと思っています。事務局よろしく願います。

事 務 局： ありがとうございます。また改正を図っていききたいと思います。

岩 本 教 育 長： それでは、次にその他ということで、事務局から願います。

## ○その他

- ・魅力と活力ある学校づくり推進プランの修正箇所について（教育総務課）

- ・行事等について（各課）

<各課より行事予定について説明>

- ・その他

岩 本 教 育 長： 続いて委員の中でご報告等あれば願います。

## ○教育委員からの報告

### 1. 湊小学校1、2学年学級懇談会「なかよしプログラム」のまとめ

<太田委員、小平委員から別紙資料により、湊小学校1、2学年学級懇談会「なかよしプログラム」のまとめについて報告>

岩本教育長： それでは、事務局より次回の開催予定についてお願いします。

<次回開催日の調整>

岩本教育長： それでは以上をもちまして、10月の定例教育委員会を終了とします。

終了11時20分

岡谷市教育委員会会議規則第23条により署名する。

平成30年11月7日

教 育 長

岩本博行

署 名 委 員

藤森 一俊

署 名 委 員

小 平 陽 子

調 製 職 員

吉 澤 洋 人

## 湊小学校1.2学年学級懇談会「なかよしプログラム」のまとめ

対象：湊小学校1.2学年保護者

目的：保護者同士の仲間意識を高める

日時：平成30年6月19日（火） 15:40～16:00（20分間）

全校参観日での学級懇談会 初めの20分間

場所：各教室

ファシリテーター：1年 小平陽子教育委員

2年 太田博久教育委員

参加者数：1年（18名） 参加者3名

2年（22名） 参加者8名

ファシリテーション内容：「とも立ちゲーム」

### 振り返り

- ・ 事前打ち合わせがあった為（竹内主任指導主事、高木教育委員）名札の手配をしっかりとっていただけた。認知症サポーター講座後という事もあり、手間はかからずそのまま会場を使えた。
- ・ 2年は、当日想定外の事項もあり、参加者が少なくて、予定と違う内容になった。
- ・ 1年は、兄妹学年の行事連絡関係などあったせいか、保護者の参加人数が担任の先生も驚くほど今回は少なかった為、プログラムには担任の先生に加え、急遽、竹内先生、草間教育長職務代理委員も参加して下さった
- ・ 湊小は保育園からほぼ同じ仲間入学するため、保護者同士は互いをよく知っているものの、趣味嗜好やそれぞれの活動などまでは知らなかったとの感想、今後のコミュニケーション作りに役立つと思われる。
- ・ 気さくなプログラムの為、担任の先生ともうちとけて話が出来た為、保護者には有意義な時間となったと思われる
- ・ 竹内主任指導主事、草間教育長職務代理を、簡単なながらも紹介する場となり、教育行政に関して保護者に親近感を持ってもらえた。
- ・

### 課題

- ・ 全校参観日で兄弟関係のある家庭が多かったせいか、参加者が少なかった為今後、何の行事とあわせてプログラムを行うかなど、検討する事も考えられる。
- ・ 参加した保護者と参加しなかった保護者とをどうつないでいくのかなど、考慮していく必要がある。